

二匹の魚と5つのパンの奇跡のあと、ユダヤの群衆はいなくなったイエスを追っかけて、ようやくカペナウムで見つける。ここで群衆は4つの問いをイエスに投げかけ、イエスは答えられる。

\* 1. 「いつここにおいでになりましたか」「イエスは答えて言われた。「まことに、ま

ことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。」(6:26~27) 彼らは、この奇跡をイエスがまことの神の子であるしるしとして認めたのではない。自分の欲、すなわちこの世における自分の願いがかなえられることに人々の関心が向いている。パンはパンでも霊的なパン、すなわち永遠のいのちを求めなさいと言われている。

\* 2. すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行うために、何をすべきでしょうか。」イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じることで、それが神のわざです。」(6:28~29) 「神のわざ」とは神が私たちに求めておられること。律法に定められていることを確実に行うことではなく、神から救いのために遣わされたイエスをキリストとして信じることである。

\* 3. 「それでは、私たちが見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どのようなことをなさいますか。——イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたものではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。」(6:30~33) 彼らは、それまでに何回もイエスのいやしや他の奇跡を見て来たはずである。直前にはパンの奇跡も体験したのである。にもかかわらず、彼らは奇跡そのものに関心がいき、奇跡を行われる方がどういうお方であるか、その方を信じるべき方かどうかということには関心が向いていなかった。彼らが信奉するモーセをとおして神は先祖に奇跡のマナを与えたが、イエスは、私の父がまことのパンを天から与えてあなたがたを養うと言われる。

\* 4. そこで彼らはイエスに言った。「主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。」イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことがありません。(6:34~35) イエスこそがまことのパンである。いのちのパンを食べる者はもはや飢えや渴きが無くなる。この世で生きるのに必要なものはすべて与えられる。また、肉体的なものだけでなく、霊的な飢えや渴きも主は満たされる。そうでないと、人間は平安のうちに生きられないし、安心して死ねない。「わたしがいのちのパンです」と言われた救い主イエスを信じ、従って行きたい。